

2015 年度 支部事業計画書

2014/10/15 締切にてお願い致します

1. 事業名 OR学会中国・四国支部国際セミナー 2015開催支部 主 中国・四国支部 副 _____開催時期 2015 年 6 月開催場所 東広島市(広島大学学士会館)参加予定人数 一般:15名 学生:30名 賛助会員:若干名 非会員:10名

事業内容

平成 25 年度と平成 26 年度に開催された**広島国際セミナー**では、国内外から著名な研究者を招き、**すべて英語による講演会**を実施した。特に「広島国際セミナー2014」は平成 26 年度の支部事業として採択されただけでなく、(公益法人)中国電力技術研究財団からの助成を受けることができ、7 名の講師による**先端的な研究成果を紹介する**という、**学術的にも非常に高水準なセミナーを開催**することができた。招聘した 4 名の海外研究者(米国, カナダ, 中国, 韓国)はいずれも国際会議 APARM 2014 に参加するために来日予定であったため、セミナーの開催時期を調整することによって錚々たる顔ぶれの講師陣を広島に招聘することができた。

平成 27 年度は 6 月 1 日-4 日に国際会議 MMR 2015 (OR 学会協賛) が東京で開催されることが既に決まっており、**信頼性・保水性理論, 確率過程論, 理論統計学**の分野で活躍する主要研究者が日本に集結する(鳩山由紀夫元総理も来賓として参加予定)。

具体的には平成 26 年度と同様に、日本人を含め 7 名程度の講師を招聘し、MMR 2015 の前後いずれかで 1 日セミナーを広島大学東広島キャンパスにおいて開催する。招聘者の候補として N. D. Singpurwalla 教授 (George Washington University, USA), N. Balakrishnan 教授 (McMaster University, Canada), N. Limnios 教授 (Université de Technologie de Compiègne, France), M. Finkelstein 教授 (University of the State, South Africa) の来日が決まっているので、**4 名の外国人講師と 3 名の日本人講師による講演**を考えている。支部事業費に加え、次年度も各種財団及び広島大学セミナー講師招聘助成金への応募を行い、講師の国内旅費と講演謝金を賄うものとする (OR 学会支部事業費からは講師 4 名分の講演謝金と 3 名分の東京-広島往復旅費を支給予定)。

2. 予算案 総額 158,260 円

内訳 .

講師謝金 50,260 円 (12,565 円×4), 講師旅費 108,000 円 (36,000 円×3), 会場費 0 円

3. 特徴

・研究活性化という観点からの特徴

OR 研究の重要性は学会内では十分に認識されているが、異なる研究分野における啓蒙活動が必ずしも十分であるとは言えない。換言すれば、OR 学会で議論の中心となっている技法を中心とした旧態依然の研究方法には限界があり、OR で培われた様々な理論・技術を異種分野に応用することが強く求められている。「OR 学会中国・四国支部国際セミナー2015」では、**必ずしも OR がバックグラウンドではない研究者が OR 技術を応用して優れた研究成果を挙げた事例をセミナー形式で紹介**することを目指しており、

内外から著名な講師を招いて先端的な事例研究を英語によって紹介するというユニークな企画である。他分野における OR 理論・技法の応用について学ぶ機会を提供しながら、国際水準の事例研究成果にふれるためにはセミナー形式を採用することが最も効果的であると考え、このような企画は OR 学会員のみならず OR に興味を持つ他分野の研究者にとっても大変魅力的であり、**異種分野統合を念頭に置いた研究活動の活性化に繋がるもの**と思われる。

・教育・普及効果 という観点からの特徴

大学院生等の学生会員を増強し、異分野を横断的にカバーする魅力的な研究分野を開拓することは学会にとっても緊急性の高い課題である。また、近年の学術研究における国際化は、学術水準を維持するためには欠かすことのできない要因であり、英語による講演会やセミナーは他分野では既に常識となっている。「役立つ OR」を標榜するためには、OR において長年培われた最適化やモデリングの技術が実際に役立つ場面を明示する必要があり、特に若手研究者や大学院生にその効果を具体的に示すことが肝要である。必ずしも「経営問題」に特化することなく OR の有用性を証明する機会是我々の周りに数多く存在しており、そのような「生きた事例」を紹介するセミナーを開催する教育的効果は極めて高いと考えられる。

・会員増強という観点からの特徴

OR 学会員のみならず近隣の理工系大学の教員にも参加案内をだす予定であり、情報工学、システム工学、経営工学、数学等、異分野からのセミナー参加を呼びかけ、**広く OR の啓蒙活動を行いたい**と考えている。特に、学生会員の会費無料化の特典を案内し、必ずしも OR 学会プロパーではないが OR の理論・技術に少しでも興味のある学生会員を増強したいと考えている。セミナー当日は、**大学院生向けの OR 学会入会デモを実施**し、入会申込書等の資料を配布する予定である。

・予算規模妥当性

予算は外国人講師 4 名分の講演謝金(2 泊分の宿泊費に相当)と 3 名分の国内交通費(実費支給分)だけであり、不足分は財団ならびに広島大学内での競争的資金に応募することで賄いたいと考えている。学術セミナーの開催費用の総額は 300,000 円前後になると予想されるので、支部事業として採択されることがセミナー開催の必要条件となる。中国・四国地域は地理的に広範囲な領域をカバーしているので、学生への旅費補助を行うことは理想的ではあるが、平成 26 年度も意欲のある外国人博士後期学生 5 名を含めた多数の学生が参加しており、**あくまでセミナーの内容だけで集客力のあるイベントにしたい**と願っている。

4. 自由記述欄 継続性・新規性など自由に記載下さい。

「広島国際セミナー2013」および「広島国際セミナー2014」が講師と参加者の双方に好評であったので、平成 27 年度は本セミナーを開催する最終年度と位置づけ、**中国・四国支部における最重要イベント**として捉えている。当支部活動の大きな柱は「国際化」と「過疎化対策」である(后者は支部研究部会で継続的な活動がなされている)。全て英語によるセミナーは他支部ではほとんど行われていないようであり、**OR 学会の国際化に先鞭をつける意味でユニークな内容である**と考える。